

2022年12月15日

旧朝香宮邸の室内調度と展示作品がコラボレーション

**「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展に特別協力**

- 「ミサワバウハウスコレクション」からグンタ・シュテルツル「テキスタイルデザイン：絨毯」など 24 点を出展
- 愛知県・島根県での開催に続く 3 館目、最後は東京都庭園美術館で開催
- 1910年代から30年代に西欧中心に各地で現れたさまざまな「モダン」の形に焦点を当てた展覧会



図版左：東京都庭園美術館（旧朝香宮邸） 外観、中央：グンタ・シュテルツル《テキスタイルデザイン：絨毯》1929年頃  
© VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2022 0612、右：エーリッヒ・ディークマン《サイドチェア》1928年頃

ミサワホーム株式会社（代表取締役社長執行役員 作尾徹也）は、2022年12月17日（土）から2023年3月5日（日）まで東京都庭園美術館で開催される「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展に特別協力し、所蔵する「ミサワバウハウスコレクション」の作品24点を展覧します。本展覧会は、愛知県の豊田市美術館と島根県立石見美術館での開催が好評のうちに終了したため、本展覧会の開催を心待ちにする声が多く挙がるなか、東京都庭園美術館で最後の開催を迎えます。

1919年にドイツで設立された造形学校「バウハウス」の思想は、デザインや建築、造形教育において今なお世界に多大な影響を与えています。ミサワホームはバウハウスのデザインから多くの学びがあると考え、1989年にバウハウス関連の作品の収集をはじめ、1996年に日本で唯一のバウハウス専門美術館「ミサワバウハウスコレクション」を開設しました。現在は作品約1,500点、資料約1,200点、芸術関連の蔵書約13,000冊を所蔵。日本最多のバウハウス関連作品を所有しており、国内外の美術館へ出展・一般公開して啓蒙活動に取り組んでいます。

今回開催される展覧会は、西欧を中心に日本を含む各地でさまざまな「モダン」の形が現れた1910年代から30年代のデザインが紹介されます。バウハウスをはじめとする装飾を排し機能を追求したデザインが生まれる一方で、新しい装飾のスタイルが次々に花開いた時代でもあります。もはや国や民族、文化の壁はなく、当時の作家たちは国やジャンルをこえて同期し合い、共鳴しながら新しい生活の形を作り上げました。本展覧会では、絵画・彫刻から家具、食器、洋服、そして建築や都市に至るまで、作家たちが探求したいくつもの「モダン」の形が約400点集結し、展示されます。

開催会場の東京都庭園美術館・本館は、旧朝香宮邸として展示作品と同時代に竣工した、歴史的建築物です。当時のアール・デコ様式が残る室内調度と展示作品とのコラボレーションや調和も同美術館でしか味わえない見どころのひとつとしてご紹介されています。「ミサワバウハウスコレクション」からはグンタ・シュテルツル「テキスタイルデザイン：絨毯」やエーリッヒ・ディークマン「サイドチェア」など24点の作品を展示。あわせて、ミサワホームグループのミサワホーム総合研究所の学芸員が展覧会の図録にブルク・ギービツェンシュタイン美術工芸学校に関する論文を提供しています。

ミサワホームは、これまで収集したバウハウスコレクションや研究成果を活用し、多くの方が良質なデザインに触れる機会を提供することで、これからも芸術や文化の発展に寄与していきます。

## ■東京都庭園美術館での開催概要

会 期：2022年12月17日（土）～2023年3月5日（日）  
主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館  
特別協力：東京国立近代美術館、東京藝術大学、ミサワホーム株式会社  
協 力：日本航空株式会社、ヤマト運輸株式会社  
年間協賛：戸田建設株式会社、ブルームバーク L.P. Bloomberg、Van Cleef & Arpels  
助 成：一般財団法人地域創造  
展覧会詳細：東京都庭園美術館ホームページ

[https://www.teien-art-museum.ne.jp/exhibition/221217-230305\\_ModernSynchronized.html](https://www.teien-art-museum.ne.jp/exhibition/221217-230305_ModernSynchronized.html)

※「ミサワバウハウスコレクション」から出展する24点は、会期中に展示替えがあります。

※予約方法や休館日など、詳細につきましては、上記 URL からご確認ください。

## ■東京都庭園美術館（旧朝香宮家）について

東京都庭園美術館は、東京都港区白金台に位置する都立美術館です。1983年から美術館として活用されている本館は、久邇宮朝彦親王くにおみやあさひこの第8王子鳩彦王やぶひこが創立された「朝香宮家」の邸宅として、1933年に竣工。1922年～1925年にフランス留学をしていた鳩彦王は、当時フランスで全盛期だったアール・デコの装飾や様式美に魅了され、室内設計をフランス人デザイナーアンリ・ラバン、建築を宮内省内匠寮に依頼したり、フランスや日本各地から優れた職人を集めるなどアール・デコの装飾や様式美をふんだんに取り入れた建物が誕生しました。正面玄関に飾られているルネ・ラリックのガラスレリーフ扉や階段のジグザグとした手摺をはじめ、室内には、アール・デコの特徴である直線的なデザインと幾何学模様をモチーフとする装飾が随所に設けられています。2015年からは、当時のアール・デコ様式が数多く残る価値の高い歴史的建築物として、国の重要文化財に指定され、後世に残すべき建築物として大切に受け継がれています。



図版左：本館・正面玄関 ルネ・ラリック「ガラスレリーフ扉」、右：本館・第一階段 宮内省匠寮「階段と花模様の照明柱」

以上

\*この件に関する問い合わせ先\*

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 阿部正成 岩井須美佳

TEL：03-3349-8088/FAX：03-5381-7838

E-mail：koho@home.misawa.co.jp